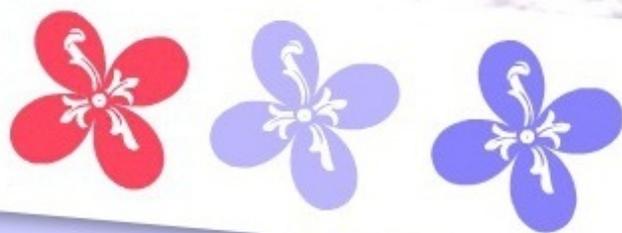


# 幻想日記短編 美虚墮



mikatuki98

## 美味しいメリーゴーランド

---

初め頭の中では彼らは別々のグループだった  
一つはグループG=新ジャガの素揚げ  
もう一つはグループS=生野菜サラダ

新ジャガは楕形に切られ180度の油で一気に揚げた  
「ふ〜あちいあちい ボクたちきっとかなり旨いよ」  
そう言うならと 一つ試食してみた  
「うん 旨い！」

生野菜のメンバーはキュウリ・新タマネギ・パセリ  
天然パーマのパセリはみじん切りだ  
だけどどんなサラダになるのか未定の段階だった

そこへ美味しい天使が現われて言った  
言ったといっても 天使はミニ画像を見せてくれる  
ミニ画像は脳裏に瞬間的に浮かぶのだ  
「そっか！それはいいアイデアだね サンキュ♪」

生野菜サラダは柚のドレッシングで和えられグループSとなり  
グループSの上にグループGがトッピングされ  
新メニューが完成した！

盛られた器にプチトマトが色どりを添え  
メリーゴーランドが回り始めた  
♪美味しいね〜♪美味しいね〜♪

了

## 虚空を飛ぶ

---

実の実は虚？ 虚の虚は実？

本当は何も無いのに、さもあるように話し始める。

ところが元々何も無いから、自分で迷宮入りしてしまう。

そんな時は迷っつけ。

疲れたら天を見上げて一つしかない日月を目指せ。

子供のころブーンブーンと両手を広げて飛行機のまねごとをしていたのは誰だろう？

自分がやった記憶はないのに、ブーンと言えばそんな光景が目に浮かぶ。

持っていない翼を広げ、飛んでいるつもりになって、だけど実際飛んでいるんだな、これが。

つまりは虚の虚は実ってところ。

くだらない意地悪をする大人に疲れた大人は、ブーンと言いながら翼を広げてみよう。

実の实なんて虚なんだから、いつまでも砂嵐に視界を塞がれてははどうしようもない。

不幸せな大人たちの本当の幸せを願いつつ、ブーンと言いながら地を飛び立とう！

了

## 墮天使の羽根

---

いつものように母を車椅子に乗せ  
冷房という不自然な環境を少しでも抜けだした

海風とビル風が渦巻く駐車場に墮ちていたそれは  
かつて天使だった彼の羽根に違いない

誰もが初めはみな天使だった  
ホンの少し悪戯心を出したばかりに  
天使は自ら墮ちてしまった

病室に持ち帰ったそれに誰が一番初めに気が付くのだろう？

あの……それ、ボクの羽根なんです！  
たった一枚失くしたばかりにボクはどうしても戻れないんです  
どうかボクに返して下さい

ええモチロンお返ししますとも  
但しこれが本当にキミの羽根という証拠があるのならね

わかりました！  
ではボクの羽根だという証拠に  
今度キミの母上を車椅子に座らせる時  
母上を軽々と抱えられるようにボクが手伝ってあげます

そんな約束を交わした想像をしながら  
微妙に重くなった母を再びベッドに寝かせると  
ベッドサイドに飾ってあるカラスの羽根を今日もジッと見つめた

了